

令和2年度 学校評価実施報告(前期)の概要

京都市立みつば幼稚園

園長 奈良美保子

平素はみつば幼稚園の教育活動にご理解ご支援をいただきありがとうございます。

学校評価実施報告(前期)についてホームページに公開していますが、概要をお伝えします。

○幼稚園教育について(保育の改善・充実)

今年度みつば幼稚園では、教育目標を「夢中になって遊び、心豊かにたくましく生きる力の基礎を培う～身近な自然に心を寄せる子どもの育成～」と設定し教育活動に取り組んでいる。

保護者アンケート全体として、A(とてもそう思う)、B(そう思う)合わせると90%を超える高評価であり、A評価が90%前後の項目も多いが、項目によってはB評価が20～30%の項目もある。(登園を喜ぶ・豊かな感情経験・自ら手洗い)

【夢中になって…】

アンケートから、保護者は夢中になって遊ぶことが心の育ちにつながると、ほぼ全員が考えていることから、幼稚園の教育活動の方針を理解していただいていることが分かった。実際我が子が幼稚園で夢中になって遊んでいるかと感じる保護者は、A(とてもそう思う)B(そう思う)併せて98%であり、6月から教育活動再開である中、高評価をいただいた。砂場の砂を増やし存分に砂の感触を楽しんだり、園庭での栽培活動や虫捕りを楽しんだり、広い園庭を思い切り駆けまわったりなど、身近な自然に触れながら遊ぶことで子どもたちが「夢中」になって活動する様子が見られた。各担任は、週案を振り返る中で、子どもの姿から、夢中になって遊ぶ直接体験から子どもが何を感じているのかを探り、その育ちをとらえ、翌日、翌週に向け保育の改善を進めている。遊びや子どもの心の動きは日々変化していく。またずっと夢中ばかりでもない。ゆっくり、ほっと一息つく姿もある。今後も子どもがより夢中になれる経験ができるよう、後期も環境や援助を工夫し取り組んでいきたい。そして、子どもの夢中になって遊ぶ姿、から子どもが感じていることや子どもの育ちを保護者や地域に分かりやすく伝えていきたい。

【新しい生活習慣】

新しい登園準備や手洗いの方法を動画配信し、環境を整え、家庭とも連絡を取りながら感染拡大防止をしながら、新しい生活の仕方を模索しながら保育をしてきた。家庭や社会全体が手洗いやマスク着用の必要性を重んじることもあり、子どもたちも丁寧な手洗いやハンカチやペーパータオルの適切な使用が身についてきているととらえている。アンケートでは「自ら手洗い」ではA評価67%、B評価が30%であり、保護者は子どもは進んで手を洗っていると家庭でも感じているが、まだ改善の余地があると思われる。これから寒くなっていく時期に、手洗いはおろそかになりがちである。今後も丁寧な手洗い指導や3密を避ける保育を工夫しながら、家庭と連絡・連携しながら健康な生活を送れるよう努めていきたい。

○幼小連携・接続について

新型コロナ感染拡大防止のため、小学校を訪れての直接の交流はできなかった。小学校校舎内を撮影して5歳児と見るなどの取り組みをしているが、他学年の保護者には十分伝えられていなかった。今までとは違う方法での幼小連携・接続となるが、工夫しながら行い、保護者にもしっかり伝えてきたい。

学びに向かう力として読書(絵本の読み聞かせ)活動に取り組んでいる。絵本貸し出しやえほん室開放も徐々に行い、貸出冊数も増えてきている。

今後も小学校とは直接交流は難しいが、教員間で接続に関して連携を図りたい。学習の基礎になる鉛筆の持ち方や筆圧など丁寧に子どもの姿を見とっていきたい。

○預かり保育(なかよしタイム)について

預かり保育(なかよしタイム)の重要度必要性が高く、また、安心の場となっているとのアンケート結果であった。異年齢との関りの場となっていることを実感しているアンケート結果であった。今年度から8時からの早朝預かり保育を実施し、利用者が徐々に増えている。同時に長時間預かり保育利用者も増えてきている実態がある。「幼稚園に通って、仕事もする」という家庭の在り方が定着しつつある。

前期前半は感染拡大防止から家庭での保育をお願いし、大変協力していただいたと感謝している。With コロナの中、感染リスクが少しでも減るよう努力しながら、安心して過ごせるなかよしタイムとなるよう努めていきたい。また、早朝預かり保育担当、担任、保育終了後の預かり保育担当の園内での連携を円滑にするとともに、園と家庭との連携をより図っていきたい。

○子育て支援について

臨時休業期間を経て、園再開後7月から教育相談を徐々に再開した。そのため、登録者数は前年度から大きく減っているが、9月、10月も新規の登録者があるなど、例年とは違う傾向が見られる。不特定多数が集まるイベントは控えているが、地域の子育て支援としての役割を担う上で、教育相談の活動を工夫しながら行うとともに、近隣の小規模保育施設との新たな連絡・連携の方法も考えていきたい。

在園児子育て支援として、園の取組を分かりやすく発信することの工夫をするとともに、3密を避けた参観や懇談会実施の工夫をしていきたい。

○地域とのかかわりについて

隣接する高齢者施設との直接交流ではなく、施設花壇に花を植える、運動会の様子を窓越しに見ていただくなど間接的な交流となっている。子ども自身に交流の実感が持てるような工夫と、保護者への発信に努めたい。また、地域行事などもなくなっているため地域との交流もない。自分たちが暮らす地域を感じられるよう、1学期に園周辺の清掃活動を行い、2学期には周辺の散歩、御苑への遠足など行った。今後も地域を身近に感じられる、このような活動を行っていききたい。また、近隣中学校との家庭科での交流も、動画や写真を含めた ICT の活用を工夫していききたい。

○その他～休業期間中の取組やコロナ対策について～

休業期間中、何とか家庭や子どもとつながろうと、教材配布や DVD 配布、動画配信など模索しながら取り組んだ。直接体験を重ねる幼稚園において、今回、ICT の活用には迫られた形だったが、「みる」ことで「分かりやすい」ことがあることを実感した。

アンケートでは降園後の消毒作業に感謝や励ましの記述が多く見られた。これを励みに親も子ども安心して通える園づくりにこれからも取り組みたい。

《学校運営協議会『みつばの森』から》

- ・コロナ禍の中、園も家庭も衛生面に気を付けて、共に取り組んでいることよく分かる。これからも、園と家庭との信頼関係を大事にし、共に連携し、一緒に取り組んでほしい。
- ・密を避けるため、従来のみつばの森の活動が十分にできないが、地域との連絡・調整など園の教育活動をサポートしていく。
- ・新しい生活様式に取り組む中で、手洗いやハンカチの扱いなど子どもの力になっている。丁寧に生活習慣を見直し、必要なこと、子どもにとって良いことは今後も継続し、子どもに必要な力を育ててほしい。